

# 葦工ニュース

県立葦崎工業高等学校

総務部

第97号

2012.11.08

**葦工祭開催・学校説明会**

**岐阜国体でアベック優勝**

**米満選手凱旋報告**

**世界大会で活躍・工業大会で優勝**

## 第50回葦工祭開催

10月12日(金)13日(土)の2日間、第50回葦工祭が開催されました。天候にも恵まれ清々しい秋晴れのもと、各種催しものが行われました。生徒会本部の体育局長と文化局長の開祭宣言で始まった開祭式は、恒例の餅つきで最高潮を迎えました。威勢のよい掛け声とともにつかれた餅は、皆でおいしくいただきました。また午後の体育行事も盛り上がり、グラウンドで大歓声の中で行われました。生徒に混じり先生達も大奮闘でした。2日目の仮装ステージでは、ステージ狭しと繰り広げられる各クラスの出し物に拍手喝采でした。クラス制作発表会も行われ、制作者の苦労が伝わるすばらしい発表会でした。今年もピタゴラや精巧な建物のミニチュア、タイタニック号や映像作品、米満先輩の健闘を讃えた制作物など多種多彩でした。多くのお客様をお迎えしたバザーやものづくり教室体験、中学生が特別参加したペットボトルロケット競技など、地域の方と一体になることができました。多くの作品が教室に展示され、似顔絵や川柳で笑い、クラス旗に感動し、工業科や各種委員会の展示に感心しました。模擬店や葦工レストランも、たいへん盛況でした。多くのお客様をお迎えし、感動的な閉祭式とともに2日間の祭典は幕を閉じました。



## 第3回学校説明会が開催される

10月20日(土)第3回学校説明会を開催し中学生84名、保護者39名、中学校教諭1名の参加がありました。6学科(電子機械科・電気科・情報技術科・環境化学科・システム工学科・制御工学科)の見学と各科の科長から説明を聞いた後、全体会を実施しました。本校の目指す生徒像・教育システム・前期入試・入学後の必要経費・卒業後の進路状況等について説明をしました。進路決定の時期が間近に迫った中での説明会のため、参加者全員が真剣に聞いていました。説明会後のアンケート結果から、生徒・保護者ともに今回の説明会に参加して今後の進路選択の参考になったことが伺えました。

## 岐阜国体で優勝 2年生コンビ

9月30日から10月3日にかけて岐阜県中津川市で開催された岐阜清流国体レスリング競技に本校から5名が山梨県代表として参加しました。主将で3年の吉田圭吾はG60kg級1回戦岩手県選手に延長の末勝利しましたが、2回戦で夏の全国3位の選手に惜しくも敗れてしまいました。同じく3年の内田和毅はF74kg級2回戦栃木県選手に勝利後、ベスト4を掛けて前年度1位の東京都選手と戦い敗れてしまいました。5位入賞を果たしました。G50kg級2年小柳和也は1回戦から快調に勝ち上がり決勝戦では夏の全国で惜敗している広島県選手に2-0で勝利し初優勝。G55kg級2年文田健一郎も初戦から決勝まで圧勝し昨年の50kg級に続き2連覇を達成しました。G84kg級へ1年で出場した和智輝も勝利こそ収められませんが来年に繋がる戦いが出来たと思います。



## 米満選手金メダル報告会



ロンドンオリンピック レスリングフリースタイル66kg級で日本に24年ぶりに金メダル(男子)をもたらした本校卒業生(平成16年度)の米満達弘選手が、10月4日に本校に凱旋しオリンピック優勝の報告を行いました。校長先生を始め、同窓会長、クラブ後援会長がお祝いやねぎらいの言葉で祝福し、生徒会より花束の贈呈を行いました。米満選手は「オリンピックで金メダルを取ったことを

皆さんに喜んでもらえるのが自分の喜びです。また、目標や進む道は違っても、それぞれの道で蕪工生として誇りを持ち、俺にも出来るという気持ちで頑張っ

## 世界カデット選手権

この夏、アゼルバイジャンのバクーで開催された15～17歳(カデット)のレスリング世界選手権大会へ日本代表としてグレコローマン50kg級へ小柳和也、同55kg級へ文田健一郎が参加しました。インターハイ、全国グレコローマン選手権に続いての3度目の減量を行いながら21日に成田を飛び立ち、途中ドーハを経由しながら27時間ほど掛けてバクーへ到着しました。2名とも機中で何も飲まず喰わずの状態



## 工業大会初優勝の野球部



夏休み中の8月17、18日に山梨県工業高等学校野球定期大会が行われました。この大会は、工業科、工業コースを有する県下の6高校(甲府工業、谷村工業、峡南、甲府城西、富士北稜、本校)が小瀬球場に集い熱戦を繰り広げ、今回で24回(平成元年より開催)を数える歴史ある大会です。本校は、初戦(準決勝)を富士北稜と戦い、5-4で勝利し、決勝へ駒を進めました。決勝の相手は、準決勝で

甲府工業を7回コールドで制した、強豪の甲府城西でした。登板したエースの今福義也は、初回のノーアウト満塁をはじめ、度重なるピンチを球威ある速球とキレの良いスライダーを武器に無失点に凌ぎ、また攻撃では数少ないチャンスの中、6回裏2番堀内将太のタイムリーで先制し、結果1-0で初優勝を飾ることが出来ました。来期の選手権大会での上位進出を目指し、これからもチーム一丸頑張っ

URL <http://www.nirasakith.kai.ed.jp>

e-mail [info@nirasakith.kai.ed.jp](mailto:info@nirasakith.kai.ed.jp)

